

2020 年 7 月吉日

蒲郡市教育委員会

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』

小中学校の教育環境についてのアンケート調査 **ご協力をお願い**

皆様には、日頃から本市の学校運営及び教育委員会活動にご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて蒲郡市では、今後の人口減少に伴い、小中学校に通う児童生徒数が減少していくことが見込まれており(※ p. 2 参照)、併せて学校施設の老朽化も進展し、建替えや大規模修繕などの施設の維持更新を順次進めなければならない状況におかれています。蒲郡市教育委員会では、これらを極めて重要な喫緊の課題として捉え、今年度から「蒲郡市の未来を拓く教育推進会議」を設置し、将来の子どもたちの教育環境をより良いものにするための検討を進めています。

この調査は、蒲郡市の未来を拓く教育推進会議でよりよい教育環境を検討するための調査・研究資料として、皆様のご協力をお願いするものです。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

※アンケート注意事項

- ① はじめに『アンケート調査にあたって』（p. 2 ～ 3）をご覧ください。
- ② 回答用紙に「学年」、「組」、「氏名」を記入していただく必要はありません。
- ③ 各設問について、別紙のアンケート調査『回答用紙』に、回答をご記入ください。
- ④ 回答は、特に指定がなければ 1 問につき 1 つの回答を選択ください。

また、点線の枠内の設問項目は対象者のみご回答ください。

- ⑤ ご記入いただいた回答用紙は、別添の「蒲郡市の未来を拓く教育推進会議」事務局行の封筒（角 2 号）に封入し、7 月 15 日（水）までに学校に提出してください。

- ⑥ 問い合わせ先 蒲郡市教育委員会 庶務課

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』事務局 電話 0533-66-1166

※同じ学校にお子さまが複数(兄弟・姉妹)通われている世帯について

アンケート調査票は、すべての生徒に配布していますが、同一世帯にご兄弟(姉妹)がいっぱしゃる保護者の方は、回答用紙は 1 部ご提出していただければ構いません。なお、お子さまが回答する設問については、最上位学年のお子さまに回答いただき、アンケートに記入して下さい。

『アンケート調査にあたって』

【全国的な少子化の進展状況について】

年少人口（０～１４歳）について、１９８０年代の２，７００万人規模から減少を続けており、２０１５年に１，５００万人台に減少し、２０５６年には１，０００万人台を割り込み、２０６５年にはおよそ９００万人になることが推計されております。

こうした背景のもと、学校が過度に小規模化したり、教育環境に影響が出たりすることが、全国的に懸念されています。（国立社会保障・人口問題研究所Ｈ２９推計より）

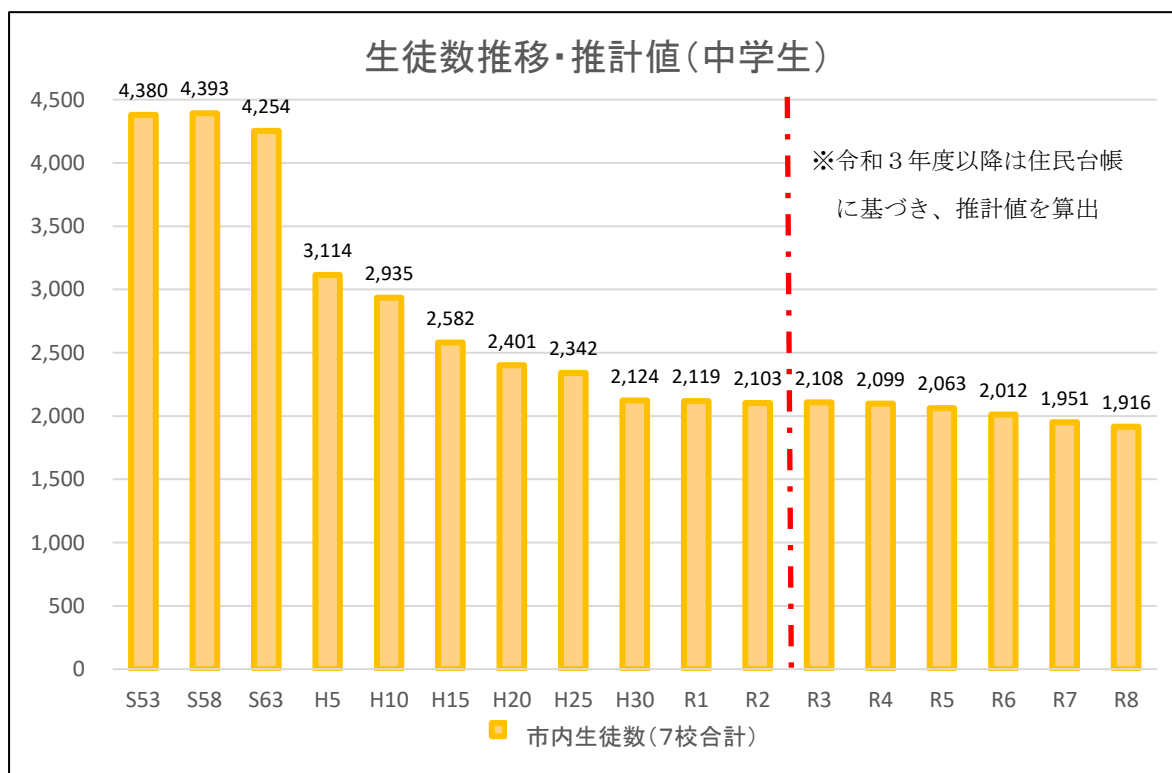
【蒲郡市の中学校の現状】

１ 蒲郡市の生徒数・学級数の見通し

蒲郡市の中学校は、現状の７中学校体制になった１９７８年(昭和５３年)は、生徒数４,３００人超であり、昭和６０年代からは年々減少し、現在(令和２年)では２,１００人程度となっています。近い将来(令和８年)の推計値は、２,０００人を割り込む想定となっています。

学級数については、少人数学級(３５人制学級)を導入し始めた平成２０年度には市全体で７３学級、そして蒲郡市が独自に実施している全学年で「３５人学級制」となった平成２５年においては、市全体で７６学級ありました。その後年々減少傾向が続き、現在は６９学級となっています。令和８年の推計ではさらに３学年減少し６６学級になる見込みです。

※特別支援学級を除く



※令和３年度以降の数値は、現在の小学校に通っている児童がそのまま同地区で中学校へ入学すると仮定し、推計値を算出しています。なお、転入・転出等による人口移動の見込みは含んでいません。

2 学校規模の分類別学校数

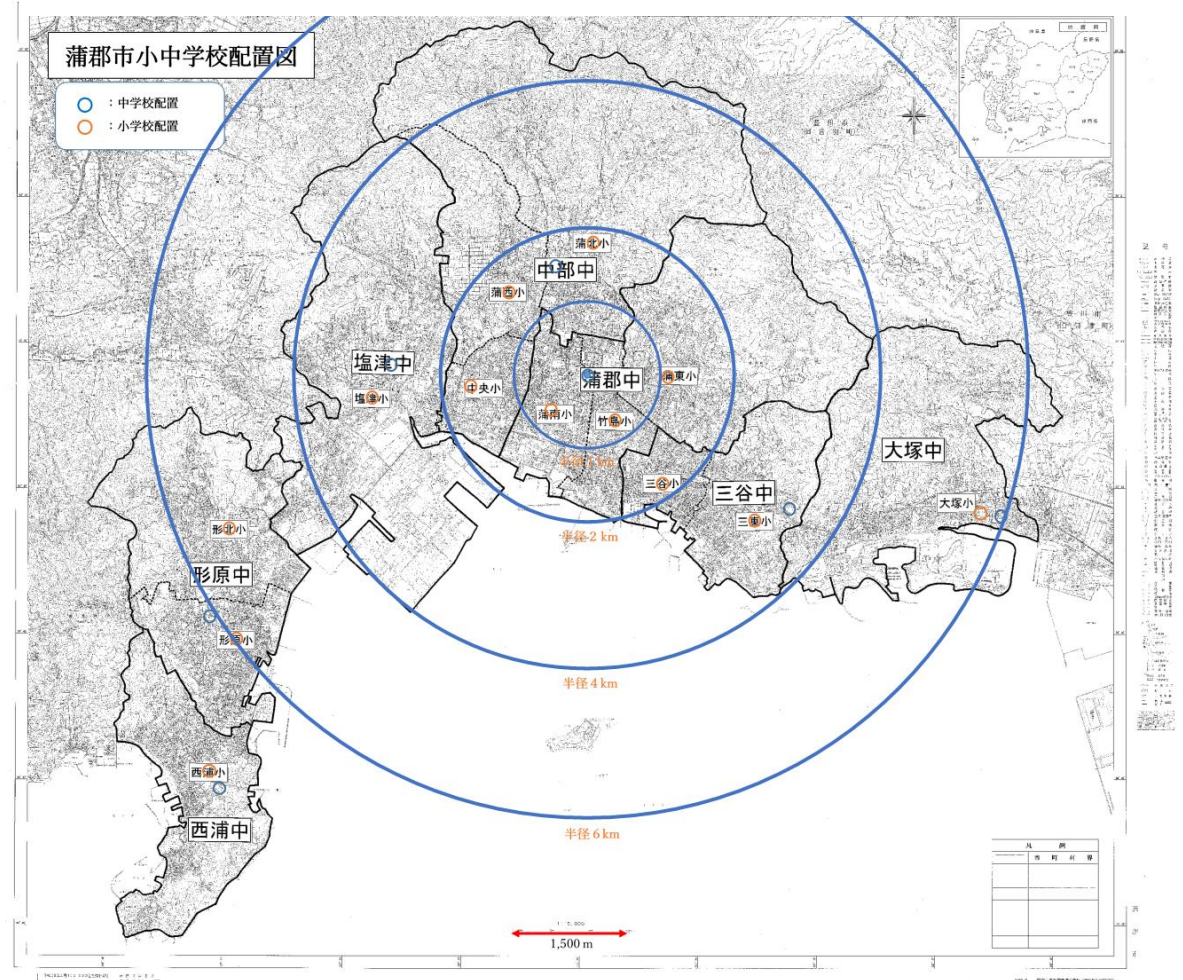
文部科学省（国の基準）では、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準の学校規模としています。その分類に基づく現在の市内の中学校（7校）は、標準規模の中学校が3校、小規模校が4校となります。令和8年度の推計値からは、さらに小規模校が増加していくと見込まれています。なお、小学校においては10校が標準規模、3校が小規模校となっています。

	小規模校 (全学年の合計 11 学級以下) ※1 学年 1～3 学級	文科省が定める標準規模校 (12～18 学級) ※1 学年 4～6 学級	大規模校 (全学年の合計 19 学級以上)
中学校(令和2)	4 校	3 校	なし
中学校(令和8)	5 校	2 校	なし

3 通学距離の基準について

中学校の通学距離については、法令によると「おおむね6キロメートル以内（小学校は4キロ）であること」とされています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 4 条 1 項 2 号）

蒲郡市の中学校の通学距離の状況は、下図からすべて6キロメートル以内であることが分かり、最長でも2キロメートルを若干上回る地域が一部ある状況となっています。



※中央の同心円は蒲郡中学校を中心点とし、1・2・4・6キロメートルを表記しています。

【アンケート調査本編】

設問① あなたのお子さまが通学しているのはどの学校ですか。

- 1 蒲郡中学校 2 三谷中学校 3 塩津中学校 4 大塚中学校
5 西浦中学校 6 形原中学校 7 中部中学校

設問② あなたにとって、お子さまが通う中学校はどのようなところであるべきだと思いますか。

(当てはまる順に2つまでお選びください。)

- 1 子どもが学力を身に付け、高等学校教育に向けた準備をするところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学び、コミュニケーション能力を高めるところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

設問③ 現在お子さまが通っている学校規模（学年の学級数、生徒数など）について、どのように感じていますか。

- 1 適正である 2 もっと多い方がよい 3 もっと少ない方がよい

設問④ 1 学年あたりの学級数として、理想的だと思うものを一つお選びください。

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4～5学級 5 6学級以上

設問④-1 設問④理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすく、高校進学に向けて準備ができる
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができ、競争意識が生まれる
- 9 学校の教職員数が多く、教科担任(※)による学習指導が受けられる環境となる
※学級数が少ない場合、教科担任以外の免許外指導が行われるケースがあります。
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動、行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

【設問④で「1」の1学級を選んだ方は、⑤-1、⑤-2をご回答ください。】

設問⑤-1 1学級の生徒数として、適当だと思うものを一つお選びください。

- 1 20人未満 2 20人～29人 3 30人以上

設問⑤-2 ⑤-1の理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- 5 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 競争意識を持ちやすく、能力向上につながる

設問⑥ これまでお子さまが通っていた小学校においては、1学年あたりの学級数として、理想と思うものを1つお選びください。

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4学級以上

設問⑥-1 ⑥理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができる
- 9 学校の教職員数が多く、行き届いた教育が受けられる
- 10 いろいろなクラブ活動や行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

設問⑦ クラス替えの必要性についてどう思いますか。

- 1 必要 2 どちらかというと必要 3 どちらかというと不要 4 不要

【設問⑦で「1」または「2」を選んだ方は設問⑧へ、

「3」または「4」を選んだ方は設問⑨へお進みください。】

設問⑧ クラス替えが必要と思われる理由はなぜですか。

- 1 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
- 2 生徒同士の人間関係や生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
- 3 学校全体にエネルギーが生まれる
- 4 高等学校教育に向け、切磋琢磨できる環境が整い、学力向上の刺激につながる

設問⑨ クラス替えが不要と思われる理由はなぜですか。

- 1 固定された友人の中で人間関係を深めることができる
- 2 慣れた環境で落ち着いて高等学校教育に向け、学習できる
- 3 クラスの団結力を強めることができる
- 4 児童生徒と教員の関係が深まり、教育環境が高まる

設問⑩ 中学校の通学距離は、法令によると「おおむね 6 キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。

- 1 1 km以内
- 2 2 km以内
- 3 2～4 km以内（自転車通学含む）
- 4 4～6 km以内（自転車通学含む）
- 5 自転車等の手段があれば距離は問わない

設問⑪ 小規模校対策（例えば学校の統合、通学区域の見直し、学校選択制の導入）は必要だと思いますか。

（文部科学省では、生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ一定の集団規模が確保されていることが望ましいとの考えのもと、学校全体で 12～18 学級、中学校では 1 学年 4～6 学級、小学校では 1 学年 2～3 学級を学校規模の標準としています。）

- 1 必要
- 2 どちらかという必要
- 3 どちらかという不要
- 4 不要

【設問⑪で「1」または「2」を選んだ方は設問⑫～⑬、

「3」または「4」を選んだ方は設問⑭～⑮へお進みください。】

設問⑫ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「1」または「2」を選んだ理由をお選びください。

- 1 小規模すぎるとクラス替えができない、クラス替えの規模が小さい
- 2 集団活動・行事に支障が出る
- 3 学校の教職員数が少なくなり、免許外指導が実施される場合がある
- 4 コミュニケーション能力を身に付けにくい
- 5 PTA 活動等で、保護者の負担が大きい
- 6 生徒数の減少が見込まれる中で、今のままの規模で学校施設を維持すべきでない

設問⑬ 設問⑪で「 1 」または「 2 」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策で、望ましい対策はどれですか。

- 1 学校の統合
- 2 通学区域の見直し ※ただし通学距離が遠方になる場合は、学校の統合を検討
- 3 通学区域の見直し ※通学距離が遠方になったとしても、学校の統合はしない
- 4 学校選択制の導入 ※就学校を選択するもの
- 5 小学校・中学校を一体化するなど、小中一貫教育の導入
- 6 他校との合同授業の実施

設問⑭ 設問⑪で「 1 」または「 2 」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策として、「学校の統合」を検討する場合の状況について、どう思われますか。

- 1 1 学級以下の（国の標準を下回る）場合は、学校統合の対策を検討すべき
- 2 9 学級未満の（全学年の 2 学級以上、3 学級未満）場合は、学校統合を検討すべき
- 3 6 学級未満の（全学年の一部が単学級になる）場合は、学校統合を検討すべき
- 4 3 学級の（全学年が単学級）場合は、学校の統合を検討すべき
- 5 複式学級※が見込まれる場合は学校の統合を検討すべき
（※ 2 つの学年をひとつにまとめた学級。例えば 1 年生と 2 年生で 1 学級とする。
複式学級の基準：1・2、2・3 年生の生徒数合計が 8 人以下）

設問⑮ 設問⑪で「 1 」または「 2 」を選んだ方はお答えください。

「学校の統合」を検討する場合に重視すべきことは何だと思いますか。

- 1 学級数・生徒数 2 通学距離・時間・方法 3 保護者の意向
- 4 生徒の意向 5 地域住民の意向 6 地域間の交流状況

設問⑯ 設問⑪で「 1 」または「 2 」を選んだ方はお答えください。

学校の統合や通学区域の見直し等を検討する場合、通学にかかる時間の限度についてはどのように思いますか。

- 1 30 分程度 2 45 分程度 3 1 時間程度以内 4 時間は問わない

設問⑰ 設問⑪で「 3 」または「 4 」を選んだ方はその理由をお答えください。

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 生徒一人ひとりが活躍する機会が多い
- 4 異学年間の交流が生まれやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 6 少なくともクラス替えができるのであれば、対応は不要である

設問⑱ 設問⑪で「3」または「4」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策（例えば学校の統合や通学区域の見直し）について、あなたの考え方に近いほうをお選びください。

- 1 人数、学級数に関わらず不要
- 2 すべての学年が単式学級であれば検討すべき
- 3 複式学級 ※になったら必要

（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば1年生と2年生で1学級とする。

複式学級の基準：1・2、2・3年生の生徒数合計が8人以下）

■ここからは、お子さまへの質問です。お手数おかけしますが回答が可能であれば、保護者の方が聞き取り、ご記入ください。回答が難しい場合は、未回答でも構いません。■

設問⑲ あなたの学年の学級数(クラスの数)についてどのように感じますか。

- 1 ちょうど良い
- 2 もっと多い方がよい
- 3 もっと少ない方がよい

設問⑳ 学年での1学年の学級数（クラスの数）はどのくらいがいいと思いますか。

- 1 1学級
- 2 2学級
- 3 3学級
- 4 4～5学級
- 5 6学級以上

設問㉑ 設問㉒でそう思う理由がありますか。

- 1 クラス替えができ、多くの友達ができる
- 2 クラス替えがない（少ない）ことで、友達とより仲良くなれる
- 3 異なる学年の友達ができる
- 4 クラス・学校での仲間意識が生まれやすい
- 5 運動場や体育館が利用しやすい
- 6 多様な部活動などを選択できる
- 7 生徒数が少ないため部活動の選択ができない
- 8 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる
- 9 わからない

自由記述

アンケートご回答ありがとうございました。

蒲郡市では子ども達によりよい教育環境を整えるため、学校規模の適正化について検討しています。保護者の皆様のご意見があれば、お聞かせください。回答用紙の自由記述欄に記載をお願いいたします。